

## 2022 年第 2 回 IEEE 東京支部理事会 議事録 (案)

日 時：2022 年 6 月 29 日(水) 15:00～17:00

場 所：住友電気工業株式会社 ホール および オンライン

出席者：中野 Chair、小林 Vice Chair、重松 Secretary、前原 Treasurer

添谷 COC Vice Chair、粕川 FNC Chair、横田 MD Chair、中村(守)NC Vice Chair、

菅野 TPC Chair、津村 PC Chair、中村(聡)SAC Chair、鈴木 HC Chair、

奥村理事、今井 LMAG Chair、Chaki YP Chair、稲森 WIE Chair、

徳田 Past Chair、滝嶋 Past Secretary

オブザーバ：西宮 SIGHT IEEE Tokyo Section Chair、Japan Office 百武氏、梶川氏

事務局、幹事会社事務担当

議題：

1. 前回理事会議事録の確認 【審議】 (資料 1)

2. 2021-22 東京支部理事会構成 (資料 2)

3. Japan Council 理事会(2022 年第 1 回)報告 (資料 3)

4. 2022 年中間会計報告 (資料 4)

質疑応答(議題 1-4)

5. 2023-2024 年 IEEE 東京支部役員・理事候補の指名について 【審議】 (資料 5)

6. 委員会活動報告 (資料 6)

・ Chapter Operations Committee (資料 6-1)

・ Fellow Nominations Committee (資料 6-2)

・ Membership Development Committee (資料 6-3)

・ Technical Program Committee (資料 6-4)

質疑応答(議題 6 前半)

・ Publications Committee (資料 6-5)

・ Student Activities Committee (資料 6-6)

・ History Committee (資料 6-7)

質疑応答 (議題 6 後半)

7. Affinity Group 活動報告 (資料 7)

・ Life Members (資料 7-1)

・ Young Professionals (資料 7-2)

(Educational Activities Committee)

・ Women in Engineering (資料 7-3)

質疑応答 (議題 7)

8. その他 (資料 8)

- ・ SIGHT 報告 (資料 8-1)
- ・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧 (資料 8-2)

(会議は、議題に記載の順に進められたが、議事録においては読みやすさの観点で各報告に続き対応する質疑応答を記載した)

議事：

## 0. Chair のご挨拶

### 1. 前回理事会議事録の確認 【審議→承認】 (資料 1)

報告： Secretary

前回理事会（2022 年 3 月開催）の議事録について説明ののち、審議・承認された。

### 2.2021-22 東京支部理事会構成 (資料 2)

報告： Secretary

常設委員会の Fellow Nominations Committee Vice Chair 森田様について、所属が KDDI 研究所から早稲田大学に変更となった。

### 3. Japan Council 理事会(2022 年第 1 回)報告 (資料 3)

報告： Secretary

仙台支部の Chair が交代。予算関係では、ドル高とコロナの影響で支出が収入を下回る状況。本年も昨年同様の傾向となりそうな状況に対し、JC では対面の海外出張等もできそうな状況を踏まえ、臨機応変な予算の修正を呼びかけ 7/15 の理事会に修正審議をしようという状況。COC では、Award 登録や Chapter 支援費申請登録を Kintone へ移管し、作業の効率が上がっているが、東京支部に移行するのは来期 2024 年とのこと。Awards Committee 浅井様（三菱電機）に次期 Chair を担当頂くことが審議・承認された。HC では、東京支部 HC Vice Chair が河東様に交代。JC HC Chair が、R10 Outstanding Volunteer Award を受賞した。Japan Council の役員選挙について候補者を決定するプロセスを進めると報告があった。Japan Council Outstanding Volunteer Award が新設され、3 月末に Call For Nomination が発行、現時点で審査が進んでいる。周年イベントについては、単独開催の意向は札幌、仙台、関西、広島の 4 支部。東京、信越を除く 3 支部が合同開催の意向。東京支部はできれば旧東京支部 75 周年（2030 年）にて JC と一緒に開催することに注力と報告をしている。

質疑応答

Past Secretary : 2点コメントする。Japan Council Outstanding Volunteer Award は、これまで日本ではなかったので、新たな仕組みを作った。既に募集と評価が始まっている。短期で立ち上げたため認知が十分でなかった可能性もあり、この場で認識頂きたい。

周年記念イベントについては、議論が続いていて結論が出ていないと認識。色々な支部の方から意見を頂いた。特に JC の中では「旧東京支部」の呼称はやめようという意見がある。ご存じの方もいると思うが、旧東京支部は日本で最初にできた支部で、日本全体を意味している。東京という名前が付くと誤解される可能性があるので、表現上はやめようということ。他の支部の方に誤解を与えないよう東京支部のメンバーもそこは意識をした方がよい。加えて JC のお祝いを東京支部と一緒に実施する案についても様々な意見があった。具体的には特定の支部だけが特別な動きをするのは良くないとの意見があり、JC と一緒に実施するなら全支部で、しないならどの支部もしないという意見であり、それを踏まえ東京支部の動き方を考えていくことになると考えている。

#### 4. 2022 年中間会計報告

(資料 4)

報告 : Treasurer

5 月末時点の状況を報告。収入については、JC からの Section Assessment については、6 月の現時点では入金済であり、Rebate、Section Assessment、その他収入が揃った状況。支出については、総会開催費用、広告費、LMAG の活動などが発生している。広告費についてはピンバッチの送付を実施した。現時点では未実施の事業が多く、計画している事業については実施し報告を頂きたい。今年度から各支部に対して Section Assessment に加えて Rebate の内訳について本部から報告が頂けることになった。財務的な視点よりも活動状況の視点で見えるものがある。Chapter、Affinity Group の活動状況、Student Branch の各大学の活動状況を見ることが出来るので活用頂きたい。

質疑応答

Past Secretary : 本部から支部への Section Assessment 費は入金されたのか。

事務局 : 入金 of Section Assessment 受取の欄に書いてあるとおりに入金されている。入金され円転して Japan Council への移動も 6 月時点では完了している。5 月末時点での記載なので JC からの Section Assessment 還元の欄は空欄になっているが、処理自体は完了している。

Past Secretary : Rebate に関する詳細情報について、Chapter や SB のことが記載されているが、COC や SAC と共有しているのか？

Treasurer : されていないと思う。今回の理事会で開示した。従来この情報は本部から開示が無く、今年から開示されている。

事務局 : Chapter の部分は従来もデータが届いていた。SB については今年新たに情報が届いた。

Secretary : 本日 SAC からは SAC Chair が出席されているが、不活性な SB を活性化していく参考にして頂きたい。

理事 : Council への拠出金は為替が変わったから大きくなったのか。全体的な執行状況は予定通りなのか。

Treasurer : Council への拠出金はメンバー数によっても変わってくるが、今回はそれに為替による変動が加わっている。執行状況は例年と比べて同程度。ただし昨年はコロナ禍の真ただ中だったので、昨年と比較すると今年は活性化している。

#### 5. 2023-2024 年 IEEE 東京支部役員・理事候補の指名について【審議→承認】(資料 5)

報告 : NC Vice Chair

2023 年-2024 年の役員理事候補の指名について、4 役と理事の候補者を全員揃えることができた。本日、承認を頂きたく審議をお願いしたい。特に問題が無ければ、東京 Bulletin を用いて追加指名が無いか確認したい。追加指名があった場合は投票に入る。追加指名が無ければ、その旨を 9/6 の第 3 回理事会にて報告し、12/1 の第 4 回理事会にて Vice Chair 等の候補も含めて承認を頂く。最後に、総会で内容を追認して頂く流れとなる。

議題 5 について審議の結果、異議なく承認された。

#### 6. 委員会活動報告 (資料 6)

・ Chapter Operations Committee (資料 6-1)

報告 : COC Vice Chair

前回理事会が開催された 3/10 以降、TCS および FCS の対応および審議案件は無い。国際会議 Sponsorship の承認手続きは内容の変更を行っているが、前回理事会(3/10)にて承認された内容について、JC 理事会ならびに国内 Chapter 委員会にも展開した。

次期 COC Chair として現 VC の添谷氏を推薦した。

質疑応答

理事 : 最近、MOU が減っている気がする。現状はどうなっているのか。

COC Vice Chair : 具体的な件数は把握できていないが、コロナウイルスの影響で減っていると感じている。

Secretary : 事務局によると、2019 年が 8 件、2020 年が 4 件、2021 年が 3 件。現時点で、今年は 1 件。コロナウイルスの影響が大きいと思われるが、今後回復の見込みがあるのか。何か他の理由もあるかもしれない。

理事 : 私が COC に所属していた頃からオンラインで開催していたので、MOU はある程度締結されていたと思う。ここ数年で減った気がしており、オンラインでさえ開催されていないように思う。

COC Vice Chair : コロナ禍になってからオンライン会議の方が増えている。MOU の件数と相関があるかは、今後現地開催が増えて応募があるかどうか、見ていくことになる。

Secretary : 注視頂くとともに、MOU を出した方が良い案件があれば積極的に出していただく。昨年からルールもアップデートされているため、参考にして手続きを進めてほしい。

・ Fellow Nominations Committee

(資料 6-2)

報告 : FNC Chair

今年 Fellow に昇格した 11 名にアンケートを出し、9 名から回答を得た。1 回で Fellow に昇格した方もいるが、そうでない方もいるので、諦めずに複数回トライして頂きたい。ご自身で行うよりも、周りの人に背中を押されて申請するケースが圧倒的に多い。日本人はほとんどそのケースである。この事実に鑑みると、実際に対面で会って、Fellow 申請を薦める機会が、コロナ禍のため少ない。組織的で継続的な活動が必要であると感じるため、次の時代でも進めるべき。Webinar も徐々に効いてくると思う。外国人の方だと思いが、自身のキャリアのために積極的にアプライする方もいる。

各大学のホームページで Fellow 昇格が紹介されるのは、本人にとってもモチベーションアップするし、後続の方にも良い影響を及ぼすと思う。一方で企業の多くはプレスリリースが出ておらず、現幹事会社や次期幹事会社には、積極的にプレスリリースを出して欲しい。2022 年の申請者数は昨年の実績では 5 人。次年度については返事を頂いていない機関が多いため、リマインドを予定している。次期 FNC Chair は森田氏にお願いする。リタイアする高齢の方が増えており、今後の FNC の体制に負の影響が見え始めていることを懸念している。

質疑応答

Chair : 2022 年度の申請者数が 5 名と出ていたが、この数字は FNC Chair のご尽力によるものか。

FNC Chair : この制度を導入してから初めての数字となるため、不明。各研究機関で年間の申請ペースを出してもらったが、この数で計画をしていることになる。

Chair : 日本全体では目標値があるのか。

Secretary : 日本全体の目標値はどのようにして調べるのか。日本の各支部から何件 Fellow の申請があったか、数を調べる方法はあるのか。

FNC Chair : 東京支部の中で私と前任の方が研究機関をリストアップした数となるため、存じ上げない。

Secretary : あくまで FNC として知る限りでは、5 名。この活動に関わらず、他に申請している方がいるかもしれないということでしょうか。

FNC Chair : その通り。

Secretary : 何らかの形式で申請者数を公式に判明できるのであれば、FNC Chair の活動や Fellow の Webinar 等で去年からの増加分がわかると、効果を計ることができる。我々は Fellow に昇格した数しか結果としてわからない。

FNC Chair : おそらく、Webinar ではその数字は出ていたはず。何年に何人が申請したという数字も見た気がする。

HC Chair : 福岡にいる方を 1 人推薦している。こうしたケースは今後出てくると思うので、JC で上手くフォロー頂ければ。

Secretary : JC Vice Chair と相談し、確認する。

Past Secretary : 以前の理事会で、Fellow に申請した人の数値目標の議論があった。最近の東京支部では、その数が少ないので目標値は 10 名に戻し、Senior Member は 6 倍を目安に 50 人から 60 人目指すという議論があった。

#### ・ Membership Development Committee

(資料 6-3)

報告 : MD Chair

先月と比較して会員数は 170 人の増加。昨年に比べ、学生会員が 50 人程増えたことが要因となっている。Senior Member 昇格者数は 2022 年 3 月から 10 人増え、4/23 時点で 16 人。今年も会員加入年数が 5 年、10 年、20 年、25 年、30 年、40 年の会員にピンバッジの送付を行った。Senior Member のメダル配布に関しても送付を行い、アンケートを同封したが昨年に比べて回答者数が少なく、返事があったのは 4 名だった。4 名とも満足度の高い回答だったが、人数が少ないので、アンケートを再送予定。

今後の活動予定は昨年の活動を踏襲し、まずは会員特典の周知やリマインドを行うとともに、会員資格更新のリマインドを行うことで会員数の増加や維持を考えている。

質疑応答

Chair : 会員数が微増している件は、持ち直しているという理解で正しいか。

MD Chair : 昨年はコロナウイルスの関係で全体的に会員数が減る傾向だった。持ち直している傾向であると思う。学会等が対面で開かれる機会が増えたことも関係しており、学生メンバーが約 50 名増えている。コロナ禍前との比較も行いたいと思う。

#### ・ Technical Program Committee

(資料 6-4)

報告 : TPC Chair

3/10 に Zoom 配信で矢野様に講演をいただいた。参加者数は会場 21 名、オンライン 25 名。LMAG 東京拡大イブニングサロンは TPC も共催しており、ハイブリッド開催となった。講演者は高野氏で、参加者数は会場 15 名、オンライン 83 名であった。第 3 回と第 4 回の講演会も予定している。

4 月末に予定していた講演は都合がつかないため未定。今年度中には開催できるよう

調整している。YP との連携は TPC の中で検討している段階。

質疑応答

Chair : LMAG 東京拡大イブニングサロンの講演会が 100 名程度集まり非常に盛況だったことは、何が奏功したのか。今後の教訓になる工夫はあったのか。

TPC Chair : 拡大イブニングサロンは年 1 回、対面で行っているものをハイブリッド開催したという経緯。印象的なテーマ、話という影響が大きい気がする。講師の選定もそうだが、講師本人にキャッチーなタイトルを付けて頂くのが方法として 1 つある。

・ Publications Committee

(資料 6-5)

報告 : PC Chair

東京 Bulletin138 号は 4/15 に発行済。以降は東京支部役員理事候補者の公告を予定しており、過去の 124 号を参照のうえ、NC の方には寄稿をお願いしたい。140 号は 7 月か 8 月に LMAG 東京の拡大イブニングサロンと第 4 回の講演会を掲載したい。R10 News Letter の投稿は April Issue に LMAG Award 受賞セレモニーが掲載されている。Secretary から Garoon の活用促進についてメール発信した。

質疑応答

Past Secretary : EA の活動に関して、東京 Bulletin で取り上げる予定はあるか。

PC Chair : 検討したい。

Past Secretary : EA 活動は活発である。JC で立ち上がり、各支部でも推進をしているため、宿題に対して応えることができていると思う。IEEE 活動の活発度をはかる指標の 1 つに情報発信があるため、何らかのエビデンスを出して、発信できれば良い。

NC Vice Chair : 東京 Bulletin の 139 号に寄稿する件、原稿のメ切はいつ頃になるか。

PC Chair: NC 側としていつアップロードしたいかによる。7 月末に発行するのであれば、1 週間前までには原稿を頂きたい。

・ Student Activities Committee

(資料 6-6)

報告 : SAC Chair

4 月末に東京農工大学で C 言語ワークショップを開催。現地 4 名、オンライン 40 名の参加だった。同大学で新入生歓迎会も実施し、12 名が参加した。電気通信大学でレポート書き方講座を開催し、YouTube チャンネルに限定公開した。6/20 現在で、動画の視聴回数は 112 回となっている。早稲田大学では 4 月初頭にチラシを新入生に配布し、説明会を開催して 10 名程度が参加した。

東京工業大学では深層学習勉強会、東京電機大学で勧誘会、早稲田大学 SB で研究紹介、東京電機大学と青山学院大学を中心として研究発表会を実施するというので RPEW を

開催する予定。ソウルセクションとの交流はメール等で連絡を取りつつ、進めていきたい。

質疑応答

**Chair** : Student Activity の予算内訳を確認した。アクティビティが活発なところは予算が付いているという理解で正しいか。

**SAC Chair** : 毎年定期的に行っているワークショップ等があるため、まず年初の段階で SAC 側が予算を見積もる。突発的に実施されるワークショップ等もあり、その場合は別予算で考えている。

**Treasurer** : Plan の提出があるか無いかで Rebate の支払いが決まる。各大学で Plan が計画されていると、Rebate が配分されるようになる。昨年度だと、6 大学が Plan を提出しているため、Rebate が配分されていた。

**Chair** : Rebate が配分されるため見える活動をし、翌年にまた Plan を出すという好循環。Plan を出していない大学に提出を促すと、その循環に入ることになる。

**Treasurer** : 私の見える範囲だと、その通りだと思う。

**Secretary** : SAC Chair の回答では、まず SAC 側で予算の確保を行うということだった。年初には SB から情報が入るとのことか。

**SAC Chair** : JC と協力して、年が変わると役員の報告と併せて 1 年間の活動計画の提出を依頼している。Plan が提出されていない大学は、その段階で連絡が付かず、カウンセラーの先生に催促しても提出が無い。

**Chair** : SAC Chair がすべての大学の Plan 提出を実現するのは大変な苦勞になる。例えば東京大学は私が声を掛ける立場なので、SAC では無い理事の方で身近な関係の大学があれば、良い循環に入るよう努力が必要だと思う。Plan 提出を促すべく、誰か見つけることを考えたいと思う。

**SAC Chair** : 私としても、周知頂ければと思う。お願いしたい。

**Chair** : メールを送信先はわかっているか。

**SAC Chair** : リストを見ればすべてわかる。

**Chair** : 誰に送ったかを教えて頂ければ、積極的な対応をお願いできると思う。

**SAC Chair** : 私の方で纏め、共有する。

**Secretary** : 大学にはカウンセラーの先生がいるので、その先生がどれだけ熱心にサポートしているかによるのでは。

**SAC Chair** : カウンセラーの先生の研究室と、学生が所属している研究室が違う場合コミュニケーションが取り辛く、学生の連絡が付かない場合もある。

**Secretary** : 時期に応じて、カウンセラーの先生を見直すことがフレキシブルな対応になると思う。

**SAC Chair** : カウンセラーの先生については SAC 側ではどうすることもできない。権利を持っている学生メンバー側から発信すれば見直しできるが、SAC 側では権利が無い。



Secretary : 実情は共有されたと思う。これを基に、JC SAC と一緒になってアクティブな SB が増えるよう力添えをお願いしたい。

• History Committee (資料 6-7)

報告 : HC Chair

次期 HC Chair は河東様をお願いしたい。マイルストーンのノミネーターの経験があるので、ふさわしい方だと考えている。東京支部でマイルストーンの申請をしている 8 件について進捗状況の報告。JC HC 委員会は 10/21 に札幌支部で開催見込みとなった。

6. Affinity Group 活動報告 (資料 7)

• Life Members (資料 7-1)

報告 : LMAG Chair

LMAG 総会を開催した。MD の Chair と Senior Member への昇格推進を昨年からは始めている。今年も 1 名応募があり、無事に昇格した。News Letter は 1 回発行しており、次回は 9 月を予定している。楽しく News Letter を読んで頂くために、新しい試みとしてコラム記事の作成を考えている。EA との共催で前 IEEE President の Susan 氏に、IEEE との関係をお話頂いた。7 月の講演会では人工光合成の話を井上先生に依頼しており、7/13 に予定している。昨年まで実施できなかった見学会は今年 4 回実施予定。SYWL の韓国出張は非常に航空券が高騰しているが、何とか実現したい。

質疑応答

Secretary : 見学会が順調に実施されるとのこと。2 年ほど実施できていないため、多くの人に参加して頂ければ。

LMAG Chair : 人数制限がある。コロナ禍のため、なかなかご希望に添えられないが興味がある人がいると思う。

Secretary : SYWL は JC でもサポートするべく動いている。韓国への渡航はビザが必要であり費用も掛かるが、できる限りサポートしたい。

• Young Professionals (Educational Activities Committee) (資料 7-2)

報告 : YP Chair

YP では 6/4 に「IEEE Region 10 & You」というレクチャーを開催した。スピーカーは IEEE R10 の Deepak Director だった。会議の目的は、日本の IEEE メンバーに R10 の活動内容や目的、自身のキャリアの紹介。IEEE の歴史と R10 の歴史について様々なお話を頂いた。質問と回答セッションでは、日本での外国人 IEEE 会員の抱える言語的な問題について質問があり、Deepak 氏が回答した。R10 が将来的に 2 つのリージョンになる話も頂いた。今後の YP の活動は Paper Writing ワークショップや Find your major ワー

クショップを考えており、分野を面白く紹介したい。様々な大学や研究開発センターと、どこの大学に話をして頂くか議論をしている。女性の方を支援する Webinar や見学会も開催したい。

EA については、IEEE 2022 Past President の Susan 氏を招待してレクチャーを頂いた。女性の立場から IEEE の中でどのように活動を行うか、どのようなキャリアの目的があるか等、貴重な話を頂いた。IEEE や STEM の分野を勉強しても、ロールモデルがいないと先が見えない。ロールモデルになれそうな方を招待してレクチャーをして頂きたいと思う。Susan 氏からは自身のキャリアや大学院卒業の話、職場の話を頂いた。「Find your major」Webinar シリーズを今後開催で、海外の大学と研究開発センターと議論を進めている。

#### 質疑応答

Chair : Deepak 氏や Susan 氏等、IEEE のリーダーシップを取った人を呼んでいるが、出始めると世界中からオファーが来て呼ばれると思う。どのように説得したのか。

YP Chair : Susan 氏は年末休暇の際に連絡を取り、日程調整が始まった。2月に予定していたが、1カ月延長して3月に開催した。イベントの内容や目的を説明し、興味を持って頂いた。

Chair : 熱意を持っていただけたということか。

YP Chair : その通りだと思う。個人的に連絡を取り、その後事務所と日程を調整して Webinar に出ると言って頂けた。

Chair : 素晴らしいと思う。熱意があればリーダーも応えてくれるということ。非常に良い前例となる。ご尽力に感謝したい。

PC Chair : 本日の報告内容を東京 Bulletin に掲載したい。ご寄稿頂きたい。

YP Chair : ぜひお願いしたい。

#### ・ Women in Engineering

(資料 7-3)

##### 報告 : WIE Chair

6/17 に役員会を開催した。3/9 に国際女性デーのオンラインコーヒーブレイクを開催し、17名の申し込みがあり、11名が参加した。学生も参加しており、指導教員の先生を通して楽しかったと感想を頂いた。仙台 WIE のイベントにも招待され、WIE Chair が東京信越の活動内容やなぜ学会活動を行うのかを語った。6/23 が国際女性エンジニアデーだったため、記念にコーヒーブレイクを実施。参加者は 10 人以上で、これをきっかけに IEEE 会員になった方もいた。地道な活動を魅力に思ってもらくと仲間が増えていくと感じた。11/12 に WIE のシンポジウムを予定している。次回の役員会は 8 月を予定しており、信州まで行ってイベントを考える等の機会にできればと思う。

質疑応答

Secretary : 今年は WIE25 周年という特別な年。従来行っているものを大規模に開催する等、JC WIE Coordinator も含めて話は進んでいるか。

WIE Chair : 具体的には動いていない。

Secretary : コーヒーブレイクを行って会員数を増やしている。R10 の報告でも Student と WIE のメンバーは増えているため、繋げることができるよう企画をして頂きたい。

WIE Chair : 東京支部 WIE としては積極的に考えている。

## 8. その他

### ・ SIGHT 報告

(資料 8-1)

報告 : SIGHT IEEE Tokyo Section Chair

4/28 にミーティングを行った。SIGHT Day 2022 が開催されていた時期なので、お祝いも兼ねて開催した。SIGHT は 2011 年にインドで初めて作られた。設立週間として毎年 4 月下旬から 5 月上旬の期間は SIGHT DAY として開催している。SAC と YP と連携して、イベントの開催を検討しており、予算を確保するために Fund を獲得する旨の議論になった。その可能性を探るため、R10 HAC のメンバーに相談し、オンラインミーティングを行った。HAC や SIGHT 関連の Fund は多くあるが、ピンポイントな目的や使い道が限られているものがあつた。様々な種類のものがあるようなので、今年中には 1 つ申請をしてイベントを行いたい旨の話をした。

質疑応答

Secretary : 適当なターゲットの Fund があれば申し込み、イベントを行う件承知した。過去の分を見て、どのようなものをターゲットにするか見込みはあるのか。

SIGHT IEEE Tokyo Section Chair : SIGHT はテクノロジー寄りの Fund である。技術開発の Fund もあるので、プロジェクトの立ち上げは可能でも旅費には使用不可という縛りがある。今まで SIGHT は SAC や YP と共催で現地のワークショップ等に行く旅費を使うこともあつたため、どうすべきか考えている。テクニカルなプロジェクトも考えているので、その方向の申請も検討している。

### ・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧

(資料 8-2)

報告 : Secretary

前回の報告からの追加分の紹介。トータル 100 件を超えている。適宜、該当する Committee や Affinity Group 等へ転送をしている。

以上